

調査会 NEWS 443](18.12.1)

定例記者会見について

調査会の定例記者会見は 12 月に 7 団体合同の記者会見が予定されていますので、人権週間終了後、12 月 20 日水曜 14:00 から事務所で開催します。

「しおかぜ」公開収録イベント

北朝鮮人権週間中の調査会主催イベントとして、人権週間最終日の 12 月 16 日(土) 10:00 から「しおかぜ」の公開収録を予定しています。会場は当初予定の会場が使えなくなったため、現在別の会場を交渉中です。決定次第連絡しますが、いずれにしても東京周辺で 10:00 からの開催は変わりませんのでご参加よろしくお願ひ申し上げます。

戦略情報研究所講演会のお知らせ

戦略情報研究所では本日本記の通り講演会を開催します。今回は上記コメントにもある「拉致認定」の問題について、真鍋専務理事がお話しします。ふるってご参加下さい。

日時 12 月 1 日(金) 18:30 ~ 20:30

会場 UIゼンセン会館 2 階会議室(千代田区九段南 4-8-16 tel03-3288-3549)

市ヶ谷駅下車 3 分 日本棋院斜向い (地図は下記をご覧ください)

<http://www.uizensen.or.jp/doc/uizensen/access.html>

講師 真鍋貞樹(特定失踪者問題調査会専務理事)

テーマ 「拉致認定」の実態と問題点について

参加費 2000 円(戦略情報研究所会員の方はお送りした講演会参加券がご利用になります。参加券がない場合は一般参加費を頂戴します。)

予約等はありません。直接会場においで下さい。

調査会 NEWS 444](18.12.5)

北朝鮮人権侵害問題啓発週間のイベント

若干変更、訂正があるかと思いますが、北朝鮮人権問題関連 7 団体（RENK、守る会、基金、家族会、救う会、法律家の会、調査会）の主催・関係するイベントは次のようなものが予定されています。奮ってご参加下さい。ただし、参加者に制限がある場合もありますので事前に主催団体にご確認いただくと幸いです。

RENK：救え！北朝鮮の民衆 緊急行動ネットワーク

守る会：北朝鮮帰国者の生命と人権を守る会

基金：北朝鮮難民救援基金

家族会：北朝鮮による拉致被害者家族連絡会

救う会：北朝鮮に拉致された日本人を救出するための全国協議会

- 9日（土） 18:00～ 講演会
（食糧会館・千代田区） RENK 主催
- 10日（日） 10:00～17:50 映像とシンポジウムで語る北朝鮮
（彩の国さいたま芸術劇場映像ホール・さいたま市） 守る会・基金主催
- 12日（火） 9:30～17:30 北朝鮮人権大使サミット
（国際協力機構 JICA 国際会議場・新宿区） 守る会・基金主催
- 12（火）～18日（月）毎日 9:30～17:30
「拉致被害者、特定失踪者、救出運動」写真・パネル展
（東京都庁第一本庁舎45階南展望室・新宿区）
家族会・救う会・調査会・東京都・東京都議会拉致議連主催
- 13日（水） 9:30～17:30 国際会議
（都市センターホテル・千代田区） 家族会・救う会・拉致議連主催
19:00～ 守る会集会
（星稜会館・千代田区） 守る会主催
- 16日（土） 10:00～12:00 「しおかぜ」公開録音
（陸上自衛隊広報センター・イベントホール・練馬区）調査会主催

調査会 NEWS 445](18.12.5)

参考情報・強制収容所問題講演集会

守る会(北朝鮮帰国者の生命と人権を守る会)では人権週間中に下記の集会を行います。拉致問題の陰に隠れがちな強制収容所の問題ですが、ある意味では北朝鮮の人権問題の象徴とも言える重要な問題です。拉致問題の解決は収容所にいる被害者の解放に直結しますし、収容所の問題を放置して拉致問題の全面解決は有り得ません。多数の皆さんのご参加を期待します。なお、他団体のイベントについても逐次ご紹介していく予定です。

北朝鮮核実験と強制収容所-----北朝鮮強制収容所廃絶の緊急性-----

日時 12月13日(水) 18:30 ~

場所 星陵会館(千代田区永田町 2-16-2 03-3581-5650)

地下鉄有楽町線・半蔵門線・南北線 永田町駅下車5分

内容 北朝鮮地下核実験と完全統制区域政治犯 姜哲煥(耀徳収容所体験者)

北朝鮮の全体主義体制と強制収容所 小沼堅司(専修大学法学部教授)

金正日の犯罪と全世界の対応の道 小川晴久(二松学舎大学教授)

参加費 1000円(学生500円)

この講演会はインターネットを通じて当日世界同時中継されます。生放送で以下のアドレスで世界中どこからでも、どなたでもごらんになれます。海外、地方の方はインターネットをご利用下さい。http://www.netlive.ne.jp

問い合わせ先 0424-23-3972(小川晴久教授方)

「しおかぜ」公開収録イベントについて

詳細は別途お知らせしますが、とりあえず場所が決まりましたのでお知らせします。多数の皆様のご参加をお待ちしております。

日時 平成18年12月16日(土) 10:00 ~ 12:00

場所 陸上自衛隊広報センター イベントホール

東京都練馬区大泉学園町 Tel:048-460-1711(代)内線2641

東武東上線(有楽町線)「和光市駅」から約1.5km(徒歩15分)

内容 北朝鮮向け短波放送「しおかぜ」の収録

調査会 NEWS 446](18.12.6)

北朝鮮人権週間にあたっての記者会見

12月10日から16日の北朝鮮人権侵害問題啓発週間にあたり、明日7団体合同の記者会見を下記の通り行います。報道関係各位には年末のご多忙な中恐縮ですが、ご対応賜りますようお願い申し上げます。

日時：12月7日(木) 14:00～(13時50集合)

場所：衆議院第2議員会館 第4会議室

内容：人権週間7団体イベント趣旨説明及び内容告知

参加予定者：7団体役員

7団体の正式名称は以下の通りです。

北朝鮮帰国者の生命と人権を守る会

北朝鮮難民救援基金

救え!北朝鮮の民衆 / 緊急行動ネットワーク

北朝鮮に拉致された日本人を救出するための全国協議会

北朝鮮による拉致被害者家族連絡会

北朝鮮による拉致と人権問題にとりくむ法律家の会

特定失踪者問題調査会

調査会 NEWS 447](18.12.8)

北朝鮮人権週間の各団体活動について

関連7団体は7日、国会内で記者会見を開き、下記文書を発表するとともに、それぞれの予定しているイベントについて説明しました。期間中イベント(7団体が中央レベルで開催するもの)の日程は以下のアドレスをご参照下さい。

<http://chosa-kai.jp/yobi/schedule.htm>

「北朝鮮人権侵害問題啓発週間」の活動について

本年6月「拉致問題その他北朝鮮当局による人権侵害問題への対処に関する法律(北朝鮮人権法)が施行され、毎年12月10日～16日の一週間が「北朝鮮人権侵害問題啓発週間」と定められました。

われわれ日頃から北朝鮮問題に携わるNGO各団体も、法律制定過程で政府に要請活動を行うなど連携して取り組みを行ってきました。それぞれの活動は違うものの、北朝鮮の金正日独裁体制による被害者を救うという点ではいささかの違いもありません。

同法では、国および地方公共団体は、同週間の趣旨に相応しい事業が実施されるよう努めるものとするが、拉致問題、帰国者問題、日本人妻問題等々、北朝鮮による人権侵害問題はわが国にとっても一刻も早く解決すべき重要問題であり、官民間問わず一体となって取り組むべき問題と考えます。

われわれ7団体としても、この期間を日本国民のみならず世界に向けて北朝鮮の人権侵害問題を一層アピールしていく絶好の機会と捉え、連携をとりながら別紙のと通りの企画を進めるとともに、このような取り組みが本年限りであることを切に願うものであります。

平成18年12月7日

北朝鮮帰国者の生命と人権を守る会

北朝鮮難民救援基金

救え!北朝鮮の民衆/緊急行動ネットワーク

北朝鮮に拉致された日本人を救出するための全国協議会

北朝鮮による拉致被害者家族連絡会

北朝鮮による拉致と人権問題にとりくむ法律家の会

特定失踪者問題調査会

なお、各団体のホームページは下記の通りです。

北朝鮮帰国者の生命と人権を守る会（守る会）「カルメギ」

<http://homepage1.nifty.com/northkorea/>

北朝鮮難民救援基金

<http://www.asahi-net.or.jp/~fe6h-ktu/>

救え！北朝鮮の民衆 / 緊急行動ネットワーク（RENK）

<http://www.bekkoame.ne.jp/ro/renk/>

救う会全国協議会

<http://www.sukuukai.jp/>

家族会は独自のホームページを持っていません。

北朝鮮向け短波放送「しおかぜ」公開収録--しおかぜの韻（ひびき）--

北朝鮮人権侵害問題啓発週間の最終日、調査会では北朝鮮向け短波放送「しおかぜ」の公開収録イベントを行います。今回は陸上自衛隊東部方面総監部のご協力をいただき、広報センターのイベントホールで開催することとなりました。初めての公開収録でもあり、人権週間の最終日を飾るイベントとして成功に終わらせたいと思っております。各位のご協力、ご参加を切に期待する次第です。

日時 平成 18 年 12 月 16 日（土）10:00 ~ 12:00

場所 陸上自衛隊広報センター イベントホール

東京都練馬区大泉学園町 Tel:048-460-1711（代）内線 2641

東武東上線（有楽町線）「和光市駅」から約 1.5km（徒歩 15 分）

内容 北朝鮮向け短波放送「しおかぜ」の収録

家族のからのメッセージ（特定失踪者家族・政府認定者家族・脱北者）

各界から北朝鮮へのメッセージ（関係団体代表、外国来賓他）

ニュース・解説・トーク番組、客席も含め参加者全員での「ふるさと」「あかとんぼ」などの収録他

参加予定者

特定失踪者家族・政府認定者家族・関係団体役員・外国来賓・調査会役員他（調整中）

現在決定は横田滋家族会代表代表・飯塚繁雄副代表・松本孟さん（松本京子さんの兄）他

参加費 無料

調査会 NEWS 447](18.12.8)

(報道関係各位) 脱北帰国者・日本人妻「しおかぜ」収録のお知らせ

北朝鮮帰国者の生命と人権を守る会と特定失踪者問題調査会では、下記の内容でしおかぜ収録を行います。報道関係の皆様には公開にさせていただきます。各位にはご多忙のことと存知ますが、脱北帰国者及び日本人妻が「しおかぜ」での呼びかけを行うのは今回が初めてです。対応方よろしくお願い申し上げます。

お話される方：日本人妻 2 名（主に日本語）・在日帰国者 2 名（朝鮮語）

日時：12 月 11 日（月）

時間：14:00 ～

会場：韓国 YMCA 9 F 会議室（東京都千代田区猿楽町 2-5-5）03-3233-0611

お問い合わせ

守る会：山田文明（090-22878610）

調査会：村尾建児（090-2140-3411）

北朝鮮向け短波放送「しおかぜ」公開収録--しおかぜの韻（ひびき）--

北朝鮮人権侵害問題啓発週間の最終日、調査会では北朝鮮向け短波放送「しおかぜ」の公開収録イベントを行います。今回は陸上自衛隊東部方面総監部のご協力をいただき、広報センターのイベントホールで開催することとなりました。初めての公開収録でもあり、人権週間の最終日を飾るイベントとして成功に終わらせたいと思っております。各位のご協力、ご参加を切に期待する次第です。

日時 平成 18 年 12 月 16 日（土）10:00 ～ 12:00

場所 陸上自衛隊広報センター イベントホール

東京都練馬区大泉学園町 Tel:048-460-1711（代）内線 2641

東武東上線（有楽町線）「和光市駅」から約 1.5km（徒歩 15 分）

内容 北朝鮮向け短波放送「しおかぜ」の収録

家族のからのメッセージ（特定失踪者家族・政府認定者家族・脱北者）

各界から北朝鮮へのメッセージ（関係団体代表、外国来賓他）

ニュース・解説・トーク番組、客席も含め参加者全員での「ふるさと」「あかとんぼ」などの収録他

参加予定者

特定失踪者家族・政府認定者家族・関係団体役員・外国来賓・調査会役員他(調整中)

現在決定は横田滋家族会代表代表・飯塚繁雄副代表・松本孟さん（松本京子さんの兄）他

参加費 無料

先ほどお送りしたニュースの号数と日付、タイトルが誤って前号のままでした。お詫びして再送いたします。内容は同じですが、前のものは破棄していただけると幸いです。
調査会 NEWS 448](18.12.10)

(報道関係各位) 脱北帰国者・日本人妻「しおかぜ」収録のお知らせ

北朝鮮帰国者の生命と人権を守る会と特定失踪者問題調査会では、下記の内容でしおかぜ収録を行います。報道関係の皆様には公開にさせていただきます。各位にはご多忙のことと存知ますが、脱北帰国者及び日本人妻が「しおかぜ」での呼びかけを行うのは今回が初めてです。対応方よろしくお願い申し上げます。

お話される方：日本人妻 2 名（主に日本語）・在日帰国者 2 名（朝鮮語）

日時：12 月 11 日（月）

時間：14:00 ～

会場：韓国 YMCA 9 F 会議室（東京都千代田区猿楽町 2-5-5）03-3233-0611

お問い合わせ

守る会：山田文明（090-22878610）

調査会：村尾建児（090-2140-3411）

北朝鮮向け短波放送「しおかぜ」公開収録--しおかぜの韻（ひびき）--

北朝鮮人権侵害問題啓発週間の最終日、調査会では北朝鮮向け短波放送「しおかぜ」の公開収録イベントを行います。今回は陸上自衛隊東部方面総監部のご協力をいただき、広報センターのイベントホールで開催することとなりました。初めての公開収録でもあり、人権週間の最終日を飾るイベントとして成功に終わらせたいと思っております。各位のご協力、ご参加を切に期待する次第です。

日時 平成 18 年 12 月 16 日（土）10:00 ～ 12:00

場所 陸上自衛隊広報センター イベントホール

東京都練馬区大泉学園町 Tel:048-460-1711（代）内線 2641

東武東上線（有楽町線）「和光市駅」から約 1.5km（徒歩 15 分）

内容 北朝鮮向け短波放送「しおかぜ」の収録

家族のからのメッセージ（特定失踪者家族・政府認定者家族・脱北者）

各界から北朝鮮へのメッセージ（関係団体代表、外国来賓他）

ニュース・解説・トーク番組、客席も含め参加者全員での「ふるさと」「あかとんぼ」などの収録他

参加予定者

特定失踪者家族・政府認定者家族・関係団体役員・外国来賓・調査会役員他(調整中)

現在決定は横田滋家族会代表代表・飯塚繁雄副代表・松本孟さん（松本京子さんの兄）他

参加費 無料

調査会 NEWS 449](18.12.13)

ゼロ番台失踪者 1 名消息確認

ゼロ番台の特定失踪者で平成 6 年に失踪した長谷山洋さんについて、拉致でないことが明らかになりました。ご家族からの連絡があり、現時点での消息ではないが、数年前の消息が確認され、拉致ではなかったとのこと。これにより長谷山さんはリストから除外されます。各位におかれましては近くに調査会のポスターがありましたら、長谷山洋さんのところは消していただきますよう、お願い申し上げます。

なお、恐縮ですがプライバシーの関係があり、ご家族への取材等はお控え下さいますようお願いいたします。お問い合わせがありましたら調査会へご連絡下さい。

齋賀人権大使の発言について

昨日 12 日、都内で開催された難民基金・守る会共催の国際会議で第 1 セッションの基調講演をした齋賀富美子・人権大使は講演の中で次のように語りました。

「12 件 17 名の拉致被害者が政府により被害者と認定されていますが、そのほかにも 30 数名の方が北朝鮮によって拉致された可能性が高いと考えられています」

この「30 数名」というのは昨年 11 月及び本年 2 月の日朝協議の中で日本側が北朝鮮に安否確認を求めた 36 名のことを指すものと思われます。

外務省は「30 数名」が誰であるのか、これまで公式的には明らかにしていませんが、実際には次の方々であることがほぼ確実です。

(調査会 1000 番台リスト)

徳永陽一郎・木村 かほる・加瀬テル子・坂本とし子・屋木しのぶ・水島慎一・斉藤裕・国井えり子・今井裕・大屋敷正行・加藤久美子・園田一・園田敏子・生島孝子・遠山文子・古川了子・高敬美・高剛・大澤孝司・清崎公正・藤田進・国広富子・布施範行・新木章・松本京子(当時は政府未認定)・前上昌輝・金田竜光・山田建治・辻 與一・河嶋功一・山本美保・秋田美輪・林田幸男・佐々木 悦子

(救う会認定...調査会ができる以前から拉致の疑いが濃厚とされていた人)

福留貴美子・小住健蔵

なお、調査会の 1000 番台リストではその後日高信夫さんが追加されていますが、この時点ではまだゼロ番台のため入っていません。

外務省がこれらの人の氏名を出さず、人数も「30 数人」としている理由は、警察が拉

致でない判断している山本美保さん、福留貴美子さんが入っているため、省庁間の齟齬をきたさないようにしているものと推測されています。

そのため、外務省ではこれまで安否照会を北朝鮮側にした失踪者について、家族にも伝えていませんでした。また、その「30 数人」をどの程度拉致の可能性が高いと認識しているのかも分かりませんでした。今回の齋賀大使の講演は、原稿をコピーして配布しており、それとほとんど同じ内容で話しています。従って、当然担当部局のチェックが入った上でのことと思われ、その意味でも大変注目されます。

北朝鮮向け短波放送「しおかぜ」公開収録--しおかぜの韻（ひびき）--
公開収録に上田清・埼玉県知事が参加していただけることになりました。

北朝鮮人権侵害問題啓発週間の最終日、調査会では北朝鮮向け短波放送「しおかぜ」の公開収録イベントを行います。今回は陸上自衛隊東部方面總監部のご協力をいただき、広報センターのイベントホールで開催することとなりました。初めての公開収録でもあり、人権週間の最終日を飾るイベントとして成功に終わらせたいと思っております。各位のご協力、ご参加を切に期待する次第です。

日時 平成 18 年 12 月 16 日（土）10:00 ~ 12:00

場所 陸上自衛隊広報センター イベントホール

東京都練馬区大泉学園町 Tel:048-460-1711（代）内線 2641

東武東上線（有楽町線）「和光市駅」から約 1.5km（徒歩 15 分）

内容 北朝鮮向け短波放送「しおかぜ」の収録

家族のからのメッセージ（特定失踪者家族・政府認定者家族・脱北者）

各界から北朝鮮へのメッセージ（関係団体代表、外国来賓他）

ニュース・解説・トーク番組、客席も含め参加者全員での「ふるさと」「あかとんぼ」などの収録他

参加予定者

特定失踪者家族・政府認定者家族・関係団体役員・外国来賓・調査会役員他（調整中）

現在決定は横田滋家族会代表代表・飯塚繁雄副代表・松本孟さん（松本京子さんの兄）他

参加費 無料

調査会 NEWS 450](18.12.15)

北朝鮮向け短波放送「しおかぜ」公開収録--しおかぜの韻（ひびき）--

日時 平成 18 年 12 月 16 日（土）10:00 ~ 12:00

場所 陸上自衛隊広報センター イベントホール

東京都練馬区大泉学園町 Tel:048-460-1711（代）内線 2641

東武東上線（有楽町線）「和光市駅」から約 1.5km（徒歩 15 分）

一部にこの時間、浜松町の文化放送スタジオでの公開収録と流れていますが、陸自広報センターでの収録のみです。お間違えのないようご注意ください。

内容（敬称略・急な変更の可能性がありますので予めご了承下さい）

レギュラー番組「日本海に架ける橋」収録

ご家族インタビュー 飯塚繁雄（家族会副代表）・松本孟（家族会）・佐々木アイ子（特定失踪者家族）

北朝鮮人権関連団体からのメッセージ 高英起（RENK）・北朝鮮難民救援基金からのメッセージ代読

北朝鮮へのメッセージ 上田清司（埼玉県知事）

前のニュースで「上田清」となっていました。お詫びして訂正します。

横田めぐみさんへのメッセージ 横田滋（家族会代表）

ゲスト、ご来場のみなさん全員参加収録

「こちらはしおかぜです」ほか

唱歌「ふるさと」「七つの子」斉唱

参加費 無料

ありがとうございました

調査会代表 荒木和博

16日に開催された「しおかぜ」公開収録は無事に終了いたしました。ご来場いただいた皆さん、ビラの配布等自主的に広報活動を行ってくださった埼玉救う会の皆さん、そして会場の提供のみならず、「想定外」と言えるほど献身的にご支援下さった陸上自衛隊東部方面総監部・同広報室・陸上自衛隊広報センターの皆さん、また取材に来てくださった報道機関の皆さんに、この場をお借りして心より御礼申し上げます。ありがとうございました。

人権週間はこの日で終了し、本日18日、都庁での写真展が終わることで関連イベントのすべてが終わります。プレイベントとも言える9日のRENK主催李英和代表の講演会から10日間、様々なイベントが催され、大きな成果を挙げました。これに向けて関係7団体が連携をとり、相互に協力できたことは大きな収穫だったと思います。報道の皆さんも熱心に取材をしてくださり、政府の関係者のご尽力もあって、初めての北朝鮮人権週間（もちろん、このような訴えをするのは今回限りにしなければなりません）としては予想以上の収穫だったと思います。

ワシントンDCらち連絡会の代表である浅野泉さんご夫妻の呼びかけで始まった16日10時から（米国東部標準時15日20時）の日米同時行動も成功裏に終わりました。私たちの公開収録もこのときにあわせて行ったものです。企画はアメリカからの呼びかけで、日本の中でコントロールする人がいないことで混乱が起きないかと心配していたのですが、それ以上に浅野さんご夫妻らの情熱と、日本・米国の各地で行動に参加してくださった皆さんの思いが強かったようです。関係された皆さんに心より敬意を表します。

さて、そうは言っても私たちに感慨に浸っている余裕はありません。今日から6者協議が始まりますが、人権週間中の各イベントで共通していた認識のように、6者協議で北朝鮮の人権問題が解決する可能性は極めて低く、また、解決のためには体制転換しかあり得ないということから考えたとき、私たちには立場の違いを越えてこの目標のために一層の努力が求められていると思います。年内あと2週間しかありませんが、まだまだ色々な展開がありそうです。一刻も早い解決のためにがんばりましょう。

最後に、「しおかぜ」公開収録の冒頭で流した緊急放送のモデルをお知らせしておきます。この放送が一刻も早く流せるようになることを期待しています。

緊急放送のモデル（実際には状況に合わせて変わります）

こちらは「しおかぜ」です。

ただいま東京に入った情報によりますと、平壤で何らかの政変が起きた模様です。繰り返します。ただいま東京に入った情報によりますと、平壤で何らかの政変が起きた模様で

す。この放送は今後予定されていたすべての番組を中止し、入手できた情報及び今後の行動についての放送を繰り返します。NHKの国際放送などでも各種の情報が伝えられます。北朝鮮におられる拉致被害者の皆さん、様々な事情で北朝鮮に渡って戻れなくなった皆さんは海外から聞こえる日本語放送に注意してください。

この番組は日本の民間団体である「特定失踪者問題調査会」が、多くの方々のご支援を受け、毎日一時間の放送を三十分ずつ二回に分けて短波放送でお送りしています。

もう一度繰り返します。先ほど東京に入った情報によりますと、平壤で何らかの政変が起きた模様です。「しおかぜ」は今後予定されていたすべての番組を中止し、入手できた情報及び今後の行動についての放送を繰り返します。NHKの国際放送などでも各種の情報が伝えられると思います。北朝鮮におられる拉致被害者の皆さん、様々な事情で北朝鮮に渡って戻れなくなった皆さんは海外から聞こえる日本語放送に注意してください。

こちらは「しおかぜ」です。

現在日本政府では様々な形で拉致被害者の皆さん、また、たとえ北朝鮮に入ったのが自分の意志であっても自らの意志に反して出られなくなった皆さん、在日朝鮮人帰国者の皆さん、そしてそれぞれのご家族の皆さんの保護の準備を進めています。まず、身边には十分に注意してください。今後この放送では救援のための艦艇の寄港地や、乗船のための手続き等についての放送も行う予定です。引き続きこの放送、「しおかぜ」に注意してください。

調査会 NEWS 452](18.12.19)

古川了子さんの拉致認定を求める行政訴訟について

昨日の和解期日(この場合の「期日」というのは法律用語で、普通使われる「振込期日」などと若干意味がことなります)に関し、原告側主任弁護士である川人博・法律家の会幹事のコメントをお伝えします。

コメント

川人博

12月18日午後、東京地裁で古川了子さん拉致認定訴訟の和解期日が開かれ、古川さんおよび政府未認定被害者について、原告被告が双方の考え方を述べるとともに、裁判上での合意が可能かどうかについてそれぞれの見解を示した。そして、協議を続行することとなり、次回の和解期日は、1月10日午前10時半<非公開>となった。

原告及び弁護団は、今後とも、古川さんおよび未認定被害者の救出活動が前進するように、力を尽くす所存である。

定例記者会見

今月の定例記者会見を次の通り行います。報道関係各位にはご多忙中恐縮ですが、何卒よろしくお願い申し上げます。

日時 12月20日(水)14:00～

場所 調査会事務所(3F)

内容 ゼロ番台リスト1名発表

マッピングリスト追加発表

「しおかぜ」の年末年始対応等について

(まだ確定したものまではお伝えできないかと思いますが概要をお知らせします。)

その他

一部の方は同じ号のものが2回届きますが、その場合は前のものには誤りがありますので廃棄してください。ご迷惑をおかけします。

調査会 NEWS 453](18.12.20)

本日 20 日の記者会見で次の通り発表しました。

(1) 0 番台 新規公開リスト (第 29 次・敬称略)

小谷 幸夫 (こたに ゆきお)

失踪年月日 昭和 43 (1968) 年 7 月 21 日
生年月日 昭和 22 (1947) 年 2 月 13 日
性別 男
当時の年齢 21 歳
当時の身分 大学 4 年生
失踪場所 福島県～山形県 飯豊連峰・飯豊本山付近
当時の住所 東京都練馬区
身体的特徴 身長 170cm より高め 体重 55 ～ 56kg

失踪の状況 拓殖大学 4 年生在学中の夏休み、北海道へ帰省する途中に、飯豊連峰に登山中行方不明に。19 日に上野駅を出発し、翌日郡山を経て 8 : 30 に磐越西線山都駅に到着。バスで登山口の一ノ木登山連絡所に行き、9 : 30 頃に登山者名簿に記録を残す。そこから飯豊山 (2205m) へ向かい、同日は手前の小屋に止まる。21 日朝 3 : 30 に同宿した 4 名とともに飯豊山を目指し、4 : 40 頃に飯豊山着。ここからガスがかかりだしたことから、同行の 4 人は引き返したが、小西さん一人御西岳に向かい、そのまま行方不明。地元警察などが捜索を行ったが遺留品など一切なし。その後二年にわたって捜索が続けられたが全く手掛かりがなかった。同泊した登山者の話では、小谷さんは「北股岳を通る」「朝日連峰にも登りたい」と話していたという。

(2) マッピング・リスト 9 1980 年代中盤、90 年代初めの若い女性の失踪 (敬称略)

A	昭和 58 (1983) 年 9 月	北陸地方	18 歳
井尻恵子	昭和 59 (1984) 年 3 月 16 日	京都府京都市	23 歳
B	昭和 59 (1984) 年 4 月	北陸地方	20 歳
山本美保	昭和 59 (1984) 年 6 月 4 日	山梨県甲府市	20 歳
今津淳子	昭和 60 (1985) 年 4 月 30 日	埼玉県深谷市	27 歳
C	昭和 60 (1985) 年 9 月	北海道	23 歳
林かな子	昭和 60 (1985) 年 11 月 22 日	東京都大田区	25 歳
秋田美輪	昭和 60 (1985) 年 12 月 4 日	兵庫県神戸市	21 歳

D	昭和 61 (1986) 年 1 月	関東地方	21 歳
E	昭和 62 (1987) 年 2 月	関西地方	23 歳
尾上民公乃	昭和 62 (1987) 年 6 月 6 日	大阪府大阪市	20 歳
F	昭和 62 (1987) 年 6 月	関東地方	15 歳
西村京子	昭和 62 (1987) 年 12 月 26 日	山口県山口市	25 歳
河田君江	平成 2 (1990) 年 2 月 7 日	山口県豊浦町	23 歳
清水桂子	平成 2 (1990) 年 12 月 13 日	岡山県井原市	22 歳
大政由美	平成 3 (1991) 年 3 月 28 日	韓国慶州市	23 歳
佐々木悦子	平成 3 (1991) 年 4 月 22 日	埼玉県浦和市	27 歳
森本規容子	平成 3 (1991) 年 9 月 22 日	兵庫県西宮市	18 歳
福山ちあき	平成 3 (1991) 年 11 月 3 日	大阪府大阪市	18 歳
松橋恵美子	平成 4 (1992) 年 1 月 15 日	秋田県能代市ないし合川町	26 歳

若い女性の失踪はこの前後もあるので、どこで区切るのは難しい。ただ、西村京子から河田君江の間は調査会のリストでは空白になっている。

以上の中で失踪状況が似ているケースは次の通り

山本美保・秋田美輪さん（失踪時の状況・遺留品）

河田君江・清水桂子・松橋恵美子（失踪時の状況・遺留品としての自家用車の放置状況）

森本規容子・福山ちあき（失踪時期と本人の状況）

（3）北朝鮮人権問題啓発週間収録一覧

「しおかぜ」では、下記のように収録を行いました。

12/10

文国韓（北韓人権国際連帯代表）朝鮮語

李民復（基督北韓人協会代表）朝鮮語

（北朝鮮難民救援基金、北朝鮮帰国者の生命と人権を守る会合同集会にて）2 名

12/11

スザンヌ・ショルティエ（北朝鮮人権活動家・米国）

（スタジオしおかぜにて）1 名

斉藤（日本人妻）

上田（日本人妻）

千葉（在日朝鮮人帰国者）

榊原（在日朝鮮人帰国者）

（韓国 Y M C A にて）4 名

12/13

塩崎恭久（内閣官房長官）
中山恭子（首相補佐官）
横田拓也（家族会）
飯塚耕一郎（家族会）
寺越昭男（寺越昭二さんの息子）
内田美津夫（寺越昭二さんの息子）
ジョン・トーマス・シーファー（在日米国大使）
古屋圭司（衆議院議員、自民党）
中井治（衆議院議員、民主党）
中川正春（衆議院議員、民主党）
白眞勲（参議院議員、民主党）日本語、朝鮮語
森ゆうこ（参議院議員、民主党）
島田洋一（救う会副会長）
パンジョン・パンジョイ（アノーチェさんの甥）タイ語

山下敏雅（弁護士・法律家の会幹事）
海老原智治（パヤップ大学、タイ国）上記日本語訳
櫻井よし子（ジャーナリスト）
恵谷治（ジャーナリスト）
姜哲煥（朝鮮日報）朝鮮語
宋永仙（韓国ハンナラ党議員）朝鮮語
（官房長官レセプションにて）20名

12/16

横田滋（家族会代表）
飯塚繁雄（家族会副代表）
松本孟（家族会）
佐々木アイ子（特定失踪者家族）
上田清司（埼玉県知事）
平田隆太郎（救う会事務局長）
神杉一彦（埼玉県議）
武藤政春（上尾市議）
菅原満（和光市議）
中田勇（新座市議）
富沢実（朝霞四市救う会）
小川晴久（守る会）
（しおかぜ公開収録にて）12名

合計 39 名 + 公開収録にご来場のみなさん

これらの収録は言語別に日本語、朝鮮語、英語の番組に分け、12月29日から1月3日までの6日間の間に、夜10:00～10:30、周波数9950KHzで放送します。(リピート放送有り)また、日本語を朝鮮語に、英語を日本語、朝鮮語に、朝鮮語を日本語に訳した上で、番組にして放送します。

各番組の内容については下記のような予定になります。

12月29日 「日本海に架ける橋」人権週間特集1(日本語放送)

北朝鮮帰国者の生命と人権を守る会

日本人妻編

斉藤(日本人妻)

上田(日本人妻)

官房長官主催レセプション

収録者から数名

他、関連ニュース解説

12月30日 「シオカゼ・ソシク」人権週間特集(朝鮮語放送)

北朝鮮帰国者の生命と人権を守る会在日朝鮮人帰国者編

千葉(在日朝鮮人帰国者)

榊原(在日朝鮮人帰国者)

官房長官主催レセプション

宋永仙(韓国ハンナラ党議員)朝鮮語

白眞勲(参議院議員、民主党)朝鮮語

北朝鮮難民救援基金集会

文国韓(北韓人権国際連帯代表)朝鮮語

李民復(基督北韓人協会代表)朝鮮語

守る会集会

姜哲煥(朝鮮日報)朝鮮語

他、関連ニュース解説

12月31日 「This is Shiokaze Sea breeze」人権週間特集(英語放送)

官房長官主催レセプション

スザンヌ・シオルティエ(北朝鮮人権活動家・米国)

ジョン・トーマス・シーファー(在日米国大使)

パンチョン・パンジョイ(アノーチェさんの甥)タイ語

他、関連ニュース解説

1月1日 「日本海に架ける橋」人権週間特集2（日本語放送）

自衛隊広報センター公開収録

北朝鮮帰国者の命人権を守る会

在日朝鮮人帰国者編 日本語訳

他、ニュース解説

1月2日 「日本海に架ける橋」人権週間特集3（日本語放送）

自衛隊広報センター公開収録

官房長官レセプション

海老原智治（パヤップ大学、タイ国）

アノーチェ・パンジョイさんメッセージ日本語訳

他収録者から数名

他、ニュース解説

1月3日 「日本海に架ける橋」人権週間特集4（日本語放送）

自衛隊広報センター公開収録

他、ニュース解説

「週刊現代」の記事について

荒木和博

昨日（25日）発売の「週刊現代」1月6・13合併号に「蓮池薫さんは私を拉致しようと日本に上陸していた」という記事が掲載され話題になっています。この記事の主人公である元小学校教員・横井邦彦氏の証言についてはご本人がブログに書く等して既に出回っていたため、私も事前に知ってはいました。「週刊現代」からは取材を受けていませんのでそれ以上のことは分かりませんが、色々お問い合わせがあるので、一般論としてその可能性について書いておきたいと思います。

拉致被害者が日本に戻る可能性はあるか、と問われれば、「ある」と答えざるを得ません。例えば福留貴美子さんは昭和51年に騙されて北朝鮮に入国し、よど号グループの1人である岡本武と結婚させられた後、昭和55年に一度日本に戻っています。これは当然工作目的であり、北朝鮮がそのようなことを福留さん1人だけにやらせることは有り得ません（福留さんの事件については月刊『正論』最新号-19年2月号-に掲載された岡田和典・調査会常務理事の論文をご一読下さい。）

私たちが調べている中でも、ある日新潟の海岸で海水パンツ姿で失踪し、数年後に沖縄で「発見」された人がいます。よど号グループのリーダーだった田宮崇麿（故人）も北朝鮮に来てから戻っている人間がいるという話をしており、そういう類の人間が相当数いることは事実です。

日本人拉致はその目的は様々でも、最大の目的は対日工作だと思われます。蓮池さんも当然そのような仕事をさせられたのでしょう。したがって、北朝鮮当局が必要だと思えば日本に戻っていたことがあってもおかしくはありません。もちろん、本件が真実だという証拠もないのですが。

ご本人のブログなどを見る限り、横井氏の証言に妄想と思われるようなところはありません。左翼は左翼ですので、私自身は思想的に相容れないところがありますが、北朝鮮に対しては非常に厳しい見方をしており、見解の違いは別にして冷静な分析であるように思います。蓮池氏には政府（対策本部事務局）を盾にするのではなく、やはり本人がマスコミの前に出て可能な限り真実を明らかにする必要があるのではないのでしょうか。

なお、本件は別にしても拉致被害者が工作活動に従事させられることは、北朝鮮当局に責任があるのであって本人に責任があるものではありません。逆に、拉致をした人を工作活動に使うという北朝鮮当局の非人間性こそが非難されるべきです。次に責任があるのは拉致を防げなかった日本政府であり私たち国民一人ひとりです。いずれにしても一番悪いのは誰かをしっかり見極めなければなりません。

6者協議について政府が説明

今日 26 日、6 者協議についての説明に調査会から代表荒木・専務理事真鍋が同席しました。内容については救う会のメールニュースでも流れていますが、色々障害はありながらも、6 者協議自体が北朝鮮包囲網の役割を少しずつ果たしていることは意味があると思います。もちろん、これだけで北朝鮮の核・ミサイル問題や拉致を含む人権問題を解決できるわけではないので、別の手段を並行させなければなりません。6 者協議に過大な期待は禁物であり、逆に言えば 6 者協議はそれなりの機能を果たしていると言えます。問題は、6 者協議で北朝鮮の逃げ道を防ぎながら、日本国として、いかなる手段を使って金正日体制を追い込んでいけるかにかかっていると思います。

ところで、これまでは日朝協議や 6 者協議の内容は家族会・救う会に対してのみ報告されてきました。今回から調査会も呼ばれるようになったのはありがたいことですが、これは古川さんの認定訴訟で「認定するしないによって差別はしない」と政府が主張していることを裏付けるためと思われる。これまでも、建前は家族に対する説明に支援者が同席するということでしたが、調査会の場合もここでの説明を特定失踪者のご家族に伝えるということが目的であり、実際 29 日までに発送予定の調査会ニュース（ご家族・関係者向けに郵送しているもの）でお知らせする予定です。

対北放送に関して提言を発表

「命令放送」以来、対北放送に関して色々議論がなされてきました。私たちも色々な立場の方々からお話を聞いてきましたが、政府の海外広報としての放送も開始されることに鑑み、ここで全体について提言をしておくべきと考え、下記の提言をまとめました。提言は本日内閣府で 6 者協議の説明を聞いた折、安倍総理・塩崎官房長官・菅総務大臣宛の文書を河内隆総合調整室長に託しました。また、その後拉致議連平沼会長の事務所を訪れ、会長宛の要請文を届けました（写しの文書は西村幹事長・古屋事務局長の事務所にも届けました）。明日 27 日には NHK を訪れ、会長宛の文書を担当者に手渡す予定です。

(要請文書)

平成 18 年 12 月 26 日

(要請先は以下の通り。宛先は個別記載。日付はNHKのみ 27 日)

拉致問題対策本部長・内閣総理大臣 安倍晋三様

拉致問題担当大臣・内閣官房長官 塩崎恭久様

総務大臣 菅義偉様

北朝鮮による拉致被害者を救出するために行動する議員連盟会長 平沼赳夫様

日本放送協会会長 橋本元一様

特定失踪者問題調査会

代表 荒木和博

平素の拉致被害者救出への献身的なお取り組みに心より敬意を表します。

さて、拉致被害者救出のための対北朝鮮放送について、昨年 10 月私どもの短波放送「しおかぜ」スタート以来、様々な議論がなされてきました。そして、今年度補正予算及び来年度予算では政府自ら放送を含めた海外広報を実施し、また、「しおかぜ」への実質上のご支援をしていただけることになりました。

北朝鮮向け情報伝達が様々なチャンネルで流されることは極めて重要であると考えます。しかし、それを効果あらしめるようにするためには改善していかなければならない点が少なくありません。つきましては別紙の通り提言を作成しました。ぜひご理解、ご協力賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

(提言文書)

平成 18 年 12 月 26 日

北朝鮮向け放送について

特定失踪者問題調査会

代表 荒木和博

対北放送の分類

日本からの北朝鮮に向けた放送は概ね目的によって次のように分類できる。

- (1) 北朝鮮にいる日本語を解する人々(拉致被害者・在日朝鮮人帰国者及びその日本人家族)に情報を伝えるもの。政権崩壊等緊急時の対応も含まれる。これについてはNHKの国際放送が一般的情報を流し、私たちの「しおかぜ」が拉致被害者を中心に、自らの意志に反して北朝鮮にとどまらざるを得ない状態にいる人々に対する情報の提供、呼びかけを行っている。

- (2) 北朝鮮の一般国民及び党・軍・政府機関幹部に拉致問題解決への協力を求めるもの。
しおかぜの朝鮮語放送がこれに当たるが、救う会が韓国の自由北韓放送を通じて行っている北朝鮮への呼びかけも同様の目的である。
- (3) 北朝鮮の金正日体制を崩壊に誘導するための情報を注入するもの。これについては、北朝鮮における独裁政権の存在が人権問題のみならずわが国国家主権の侵害、安全保障上の大きな懸念となっている以上、本来国家意志をもって行うべきと考えるが、現状では国が行うのは難しいので以下の議論では省略する。

なお、これ以外に「しおかぜ」では英語でのニュース発信も行っており、これは短波放送の特性を活かして英語圏まで含め広範囲に拉致問題・北朝鮮問題への周知をはかるものである。さらに、すでに報道されているように政府では平成 18 年度補正予算及び 19 年度予算において放送などを利用した海外向け広報活動を行うこととしているのは周知の通りである。

現在の NHK の北朝鮮向け国際放送に関する問題点

現在の NHK のハングル（朝鮮語）国際放送は 20 分ないし 30 分の放送を 1 日 6 回流している。時間は日本時間で 7 時 10 分から 23 時 30 分の間、周波数は放送によって異なるが 6190 kHz から 17845 kHz の間である。また、建前上は外国向けではないが、中波の第 2 放送では毎日 13 時 10 分から 13 時 20 分の間「ハングルニュース」を放送している。

短波の国際放送は拉致問題も含めたニュースのみならず、日本の様々な情報を朝鮮語で伝える貴重な時間だが現在の放送は高域の周波数が多く、ソウルでも聴取状況は決して良いとは言えない。朝も 7 時 10 分放送開始と、遅めのスタートで、北朝鮮で隠れて聞いている人には聴取しにくい時間である。

命令放送に関する問題点

すでに何度も報道されてきた通りだが、11 月 10 日総務省から NHK 国際放送に対して「拉致問題を重点的にとりあげるよう」命令が行われた。

菅義偉総務大臣の意図は、国際放送で拉致問題の報道を増やすことによって北朝鮮にいる拉致被害者への広報効果の拡大をねらったものであり、意図としては高く評価すべきものだが、もともとこの命令放送についてはその名称と運用が実態にそぐわないものであったため、かえって現場に混乱をきたしており、本来目指したものが実現しているとは言い難い。

命令放送の根拠となる放送法第 33 条には「総務大臣は、協会に対し、放送区域、放送事項その他必要な事項を指定して国際放送を行うべきことを命じ、又は委託して放送をさ

せる区域、委託放送事項その他必要な事項を指定して委託協会国際放送業務を行うべきことを命ずることができる」とある。これにもとづいて今回の放送命令も実施されたわけだが、実際にはこれまで行われたNHKへの放送命令の内容は慣例的に一般放送の中で「浑然一体」となって放送されており、その責任の所在が極めて不明確である。一方で拉致問題は日朝間のみならず周辺国も巻き込んだ国際問題であり、なおかつ多数の日本人の人命にかかわる重要問題であるため、さまざまな齟齬が生じている。

特に現場では報道すれば「命令をされたからだろう」と見られ、報道しなければ「命令に逆らっている」と見られるというジレンマに陥っている。また、本来国際放送に対する命令放送であるにもかかわらず、国内でのNHKのテレビ・ラジオの報道までそのような目でみられているのが実情である。

公共放送であるNHKがその報道内容について様々な批判を受け、それに真摯に対応すべきことは当然である。私たちも批判すべきことは批判しているが、一方メディアとしての編集権は担保されなければならない。それは自由な社会を守るために当然のことである。

提言

以上のことを踏まえ、より効果的な北朝鮮への放送を実現するため以下のように提言する。関係各位には積極的にご検討されることを切に期待する次第である。

1、NHK国際放送の時間及び周波数の変更

放送時間を可能な限り早朝及び深夜にシフトし、周波数帯の高い放送はできるだけ低い周波数、例えば6MHz帯に変更して、より聴取機会を増やしていただきたい。

2、NHK第2放送の活用

第2放送の開始される前の時間、5時30分～6時の30分を使って国際放送（朝鮮語）のプログラムを流していただきたい。

3、「命令放送」の見直し

最終的には放送法の改正が必要になるが、政府が出資する根拠と編集権の確保の齟齬を解消するためには、現在のやり方を見直さなければならない。「命令放送」を「指定放送」とし、国際放送の中の一定時間を政府広報として流す形に変更していただきたい。その内容は政府が独自に作っても、NHKに委託しても良いが、いずれにしても放送にあたっては政府広報であることを明確にし、内容についての責任は政府が負うものとするべきである。政府はこの時間を使って拉致問題に関する広報活動を積極的に行っていただきたい。

4、政府による海外広報（特に北朝鮮向け放送）について

政府が自ら北朝鮮向けの呼びかけを行うことを決めたのは評価される。実施に当たってはぜひ「しおかぜ」第一放送で実施している特定失踪者の氏名等データの読み上げと連絡先（瀋陽・北京の在外公館等も含め）の告知を行っていただきたい。

政府が行うとなれば「特定失踪者」という括りで氏名を流すことは難しいかも知れないが、名称にこだわる必要はない。認定未認定にかかわらず、拉致被害者にとって自分の氏名を放送で聞くことの意味は計り知れないほど大きいはずである。「しおかぜ」では「拉致された方、拉致の可能性のある失踪をされた方」という言い方をしている。私たちのリストにある人以外にも警察には多数の方々から「家族の失踪は拉致ではないか」との問い合わせが届いており、可能であればそれらの方々で希望する場合も含めて流せば大きな意義があると思われる。

なお、上記政府海外広報についてもそうだが、北朝鮮の金正日体制崩壊などにもなう緊急時の放送については関係機関が連携をとりながら迅速な判断によって行うべきであり、調査会としてもその準備を進める予定である。

以上

蓮池さんのこと

荒木和博

調査会の岡田常務理事から言われて気づいたのですが、蓮池透さんの著書『奪還 第二章』126 ページに警察の事情聴取に関する話が出てきます。その中にこんな一節があります。

「弟夫婦への警察の事情聴取は結局、2004 年秋に弟の希望通り実家で行われました。その時、驚くような質問を受けたそうです。『北朝鮮のパスポートを所有していますね。日本国内へ工作活動に来たのはいつですか？ 誰にも言いませんから』『北朝鮮で日本語教育というある意味でスパイ養成に加担したわけですが、どういうお気持ちで？』弟は、『日本国内になって、入れるわけがないだろう。日本語教育は、われわれが生き残るためにやったまでなのに...あなた方は助けに来てくれたのか？』と激怒したそうです。状況を聞いた私は開いた口が塞がりませんでした」

確かに、こう聞かれれば、薫さんが怒るのももっともでしょう。誰も助けに来なかったのに何を言うか、というのは今北朝鮮に残っている拉致被害者からも、私たちはやがて同じ言葉を聞かされることになると思います。

しかし、それはそれとして、この記述が事実なら、なぜ警察はあえてこういう質問をしたのでしょうか。何も根拠がなく、皆が腫れ物にでも触るように扱っている帰国した拉致被害者にこういうことを聞くのでしょうか。やはり警察は何か極めて重要な情報、捜査上の秘密などという言葉で隠してはならない重要なことを知っていて、そして隠しているのではないかと思わざるを得ません。あるいはそれは警察レベルのことではないのかも知れません。そして隠しているという意味ではもちろん帰国した5人もです(私は少なくとも5人を非難するつもりはありませんし、その資格があるとも思いませんが。)

ちなみに私はこれまで5人に何度も、もっと積極的に事実を語ってほしいと手紙を出してきました。『奪還 第2章』にはそのことも書かれており、調査会から脅迫状めいた手紙が届いたとされています。そう受け止められているとすれば残念ですが、私たちはほんの僅かな、不確かな情報でも渴望している失踪者のご家族の思いを背に負っているのですから、多少の無理はせざるを得ません。それが脅迫であるとして罪に問われるならそれも仕方ないと思います。

少し話が変わりますが、平成14年9月17日の、外務省飯倉公館で確認もしていない死亡情報を「確認しました」と伝えられたこと、そうしておきながら北朝鮮の伝えてきた「死亡」日付などの情報は伝えなかったという体験のおかげで、私の国家権力というものに対する見方は大きく変わってしまいました。この件については拙著『拉致 異常な国家の本質』に書きましたが、先日これが原作となった漫画が『撃論』というコミックの中に掲載

されています。山本美保さんの事件についても載っていますので、関心のある方はご一読下さい。もっとも、そのときの雰囲気は結局その場にいた者でなければ分からないと思います。

さらに話が飛躍します。遡ること 65 年、ミッドウェー海戦での大敗北を、当時の帝国海軍は隠し続けました。陸軍すら知らない状態であったのですから、その後まともな作戦計画など立てられるはずはありません。残念ながらまだ見ていないのですが、今上映されている映画「硫黄島からの手紙」にも栗林中将が海軍の現状を知って驚愕するシーンがあるそうです。これは決して誇張ではないと思います。

そのとき、海軍の首脳に何らかのはっきりした方針があって隠していたならまだ良かったでしょう。実際にはそんな高次元なものではなく、単に「認めたくない」「責任を取りたくない」ということだったとしか思えません。そして、そこから始まった壮大なボタンの掛け違えの結果が何であったのかは歴史が教えてくれています。

私には今、拉致問題をめぐって行われていることがこれと同じなのではないかと思えてなりません。国家としての基本方針が存在しない中で、個別の機関がそれぞれ自分の都合で隠したり、あるいは必要に応じてマスコミにリークしたりする。マスコミはマスコミで、個々の記者は「おかしい」と感じながらもリークする者の意図に沿うように報道してしまう、ということに来てしまっているのではないか。そんな懸念がこの数年脳裏を離れないのです。

拉致問題は絶対にハッピーエンドでは終わりません。「見なければ良かった」というようなことに私たちは今後何度も直面することになるはずですが、しかし、正面から真実と向き合う勇気がなければ、必ずそのツケは私たちに回ってきます。想像もできないような事実を受け止めることができるかどうか、私たち一人ひとりが天から試されているのかも知れません。